

## 令和7年度 第11回府中市環境保全活動センター検討調整会 議事録

■日 時：令和8年2月17日（火）午後2時～4時

■場 所：第2庁舎6階小打合せ室

■出 席：(敬称略)

(委 員)(5名) 浅田 多津子、室 英治、西尾 克人、石川 伊智郎、  
藤間 利明

(事務局)(2名) 熊谷 一茂、青木 大地

■欠 席：(敬称略)

(委 員)(1名) 杉村 康之

(事務局)(2名) 柳下 豊宏、田口 敦

■議 事

### 1. 報告

#### ① 令和7年度 第10回検討調整会議事録・・・

- ・(事務局:青木)議事録内容について説明。修正等無し。

#### ② 活動センター事業について・・・

- ・(事務局:青木) 今回の配布資料では事業一覧を省略しているが、第8回かんきょう塾については、参加人数が24名であった旨報告。なお、春の親子かんきょう塾バス見学の参加人数含めた事業一覧は、次回の検討調整会で改めて配布する予定である。今後の予定について、以下の通り報告あり。  
「春の親子かんきょう塾バス見学」： 配布資料の行程案に基づき説明。2月4日に事務局3名で現地下見を行い、野山北・六道山公園では狭山丘陵パートナーズの案内のもと、当日の流れや滞在時間の目安等を確認した。小平市ふれあい下水道館でも担当者から見学の流れについて説明を受け、当日の案内に生かせるよう準備している。募集状況については、2月15日号の広報及びセンターホームページで募集を開始し、LINEやメール配信等のSNSでも周知した結果、前日時点で13組の申込みがあった。前回と同様に、抽選となる可能性が高いとの見込みが示された。また、サポーターに対して引率協力の依頼メールを送っているが、バスの定員の都合から、協力者は最大6名程度を想定している。

#### ③ 市民協働・共創促進事業について・・・

- ・(事務局:青木) 市民協働・共創促進事業について、完成した募集記事が市のホームページへ掲載された旨報告。前回の意見を一部反映しているが、協働共創推進課との調整の中で、「市民営化」という文言については初見の方に分かりにくいとの指摘があり、記事本文では削除した。このテーマ型

事業は、令和8年度の第1回トライアル事業として掲載されており、3月末までに事業者から提案を受け付けるスケジュールである。既に、関係者や関係団体に対してメールで本事業の周知を行っており、どの団体から提案が来るかを待っている状況である。審査会及び公開プレゼンテーションは5月26日に予定されており、採択されれば6月以降に実施となる見込みである。また、本事業の予算について、今年度までは1件あたり上限200万円であったものが、トライアル性を重視する方向に変わったため、来年度から1件あたり上限100万円に変更となる。その予算内で実施できるワークショップ型事業として成立させる必要があり、削減可能な費用を精査して先方と調整していきたい。次回の検討調整会までに動きがある可能性あり。

- ・(西尾委員) ホームページの掲載テーマ番号「32」とあるが、1年間でどのくらいの数がテーマとして出ているのか。
- ・(事務局:熊谷) こちらは年に何回というものではなく、これまでにわたり積み重なってきたテーマ型の通算番号というイメージである。
- ・(藤間委員) 募集に対して、事業者が申し込む際のフォーマットには、団体名、担当者名、連絡先、テーマ型かフリー型か、事業概要、補足資料のアップロード、市民協働・共創事業への参加予定の有無等の記入欄あり。
- ・(室委員) センターのイベントの一つとしてこの事業を行う認識でよいか。
- ・(事務局:青木) 本事業の活用は、現行の活動センター事業とは別に、新しいセンターのあり方を考えるための取組であり、新センターに向けた一歩としての位置づけと考えている。
- ・(浅田委員) 5月26日の審査会までに、検討調整会としては、本事業にどのように関わっていくのか。
- ・(事務局:青木) 提案事業者が出そろった後、協働共創推進課、環境政策課、提案事業者の三者で打合せを行い、どのようなワークショップにするかを詰めていくことになる。その過程で、検討調整会にも情報共有を行い、意見を伺いたいと考えている。検討調整会の回数を増やすのは負担となるため、必要に応じてメールでの共有・意見聴取を想定している。
- ・(藤間委員) 審査会では、環境政策課と提案事業者の役割分担が重要視されるため、その前段階で十分に擦り合わせておく必要がある。審査会では「どこまでが提案団体の役割で、どこまでが環境政策課の役割か」「事前に合意ができていないか」が問われることが多く、そこが曖昧だと事業が頓挫するおそれがあるためである。審査会までに役割分担や事業の大枠を見える形にしておく必要がある。
- ・(西尾委員) 再来年度のセンターの事業計画を考えると、ワークショップの成果物は早い段階で必要となるのではないか。

- ・(事務局：熊谷) 再来年度での予算獲得を見据えるとなると、10月中旬には成果物が必要となる。
- ・(石川委員) 現段階では、論点整理シート通りに概ね進んでおり、あとはスケジューリングを細分化していくイメージで認識している。
- ・(室委員) センターは長年活動してきたものの、組織としての実体はまだ十分機能しておらず、数か月で委託主体や運営体制を整えるのは極めて厳しいのではないか。
- ・(事務局：熊谷) 短期間ですべてを整えることは不可能であるが、まずは市民の意見を吸い上げ、道しるべとなる成果物を作るために、ワークショップを活用したい。

④ その他・・・

- ・(浅田委員) 先日の第8回かんきょう塾について意見が寄せられた。受講生が自ら調べた内容を発表したにもかかわらず、それに対して主催者側から明確な講評や受け止めが示されなかったため、参加者の一部から「せっかく提案も含めて発表したのに、どう受け止められたのか分からずがっかりした」という声があった。来年度の企画募集や、提案を今後どう生かすかが見える形になると、参加者の意欲にもつながるのではないか。来年度の活動センター事業の検討の中で、こうした点も踏まえていくべき。
- ・(藤間委員) 杉村委員からの伝言として、かんきょう塾の修了証・賞状についての意見があった。内容は、かんきょう塾として賞状を出すのであれば、市長の代行として課長から渡すべきではないか、また、もし室委員から渡すのであればセンターの長として渡すべきではないか、さらには公印を入れるべきではないかというものであった。来年度に向けて改めて整理すべき課題として共有された。

## 2. 議事

① 令和8年度の活動センター事業について・・・

- ・(事務局：青木) かんきょう塾ネットにて作成していただいた来年度かんきょう塾のカリキュラム案を配布した。来年度も全8回構成で検討しており、第1回の5月の講義として、今年度の環境セミナーで扱う予定であった「環境負荷低減の農業」をテーマにした内容を組み込む案が示された。講師の候補として、東京農工大学の澤教授の名前が挙がっている。
- ・(藤間委員) 前回の環境審議会時に澤教授へ打診したところ、引き受けてもよいとの感触があった。ただし日程は当初10月案であり、5月に移せるかは未確認であることが補足された。また、澤教授は府中市内の農家とのつながりも深く、工夫した農業の事例紹介も可能とのことであった。

- ・(浅田委員) 澤教授がどのような内容の話をするのか確認したい。遺伝子組換えの稲作などもあるため、内容については留意すべきである。
- ・(事務局:熊谷) 最終的に、この場でカリキュラムを確定するのではなく、かんきょう塾ネットから提案された大枠を共有し、今後さらに詰めていくという認識である。
- ・(藤間委員) 資料の左側にある「土壌」のテーマはぜひ入れたい。また、「南極・北極」のテーマについても、温暖化が日本に及ぼす影響を子ども向けに分かりやすく説明してくれる内容であり、講師が日本にいるタイミングであれば、候補になり得る。
- ・(浅田委員) 今年度、府中かんきょう市民の会でかんきょう塾の講座を1枠受け持っていたが、来年度はどうなるのか。1枠いただけるのであれば、マイクロプラスチック問題をテーマとして、農工大サークル「C e t」の学生を講師として招くのはどうかとの提案。
- ・(事務局:熊谷) 6月の市民環境セミナーの枠が空いているため、是非その枠を活用いただきたい。場所確保や謝礼金の用意含め事務局で対応可能。

② 活動センターだより 51号の誌面構成について・・・

- ・(事務局:青木) 全4ページ構成とし、1ページ目は表紙としてタイトルロゴと大きな写真を配置し、かんきょう塾のうち2回分程度を掲載する想定。2ページ目はかんきょう塾の残り6回分を写真中心で報告し、3ページ目ではその他イベントの報告として掲載。4ページ目はセンターホームページへの誘導とPRコーナーとし、大きめの二次元コードを載せ、詳しい活動内容の案内へつなげたい。写真を大きめに使い、余白も確保しながら、読みやすいフォントを用いて簡潔な説明を付ける構成を想定している。今後のスケジュールとしては、3月末に発行し4月以降に配布の予定。
- ・(浅田委員) 今後のセンターのあり方や市民営化の検討に向けても、サポーター制度の紹介や募集案内を今回の号に入れた方がよいのではないか。かんきょう塾参加者の中にもサポーター制度を知らない人がいるため、4ページ目のPR部分で、サポーターとは何か、どのような活動をしているのかを簡潔に紹介し、登録フォームやホームページへ誘導できるとよいのではないか。また、サポーターの声として、実際に活動している方の短いコメントを掲載すれば、読者が参加をイメージしやすくなる。

③ かんきょう塾等から市政に向けた提案について・・・

- ・(浅田委員) 今年度のかんきょう塾を通して出された「市政に向けた提案」について、配布資料のとおりA4用紙一枚に整理した。資料の中で、1がセンター事業を通じて見えてきた提案、2がかんきょう塾のグループ

発表から出た提案に大別しており、今年度実施してきた内容を踏まえ、市に対してどのような提案ができるかを整理したい。

- ・(藤間委員) こうした提案を市長宛てに出すのか、関係課へ情報提供する形にするのかが重要である。例えば、ごみ分別やピンクの指定袋の分かりにくさについての提案は、ごみ関係の担当課に伝えた方が具体的に生かされやすいと考える。
- ・(事務局：熊谷) 内容が整理された資料があれば、各担当課あてに事務連絡として情報提供することは可能と思われる。
- ・(浅田委員) 次回検討調整会までに内容を整理する。委員からメール等で意見をいただき、完成版を目指す。
- ・(事務局：熊谷) 委員間の意見交換をスムーズにするため、CCを活用することで、委員同士でメールアドレスを見られるようにして問題ないか。
- ・(委員一同) CCの活用について了承。

### 3. その他・・・

次回は3月17日(火)午後2時～ @市役所おもや3階会議室A302  
(その後、第2庁舎6階打合せ室に変更)。次回、藤間委員は都合により欠席の旨連絡あり。